

# 国立大学法人鹿屋体育大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

鹿屋体育大学は、国立大学唯一の体育大学として、スポーツ振興と健康科学の発展の両面で、人間性のある指導者の育成を目標とし、競技スポーツ、生涯スポーツ等に関する動向やニーズを踏まえ、教育研究及びそれに関連する事業を展開し、実施している。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、**e-Learning** のためのコンテンツ開発等の IT を活用した学習環境の整備、学生の競技活動・大学院生の研究活動を支援するための経済支援等の取組を行っている。

研究については、地域スポーツ指導者のための自己学習啓発用メディアの作成、県内自治体と連携した **PALS(Promotion of Active Life Style)** プロジェクトの実施、諸外国との武道交流等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、大学を基盤とするスポーツクラブ「**NIFS** スポーツクラブ」の設立、「ウォータースポーツ文献情報データベース」や「スポーツ映像データベース」の構築等の取組を行っている。

業務運営については、事務組織を抜本的に見直すため事務組織改革大綱を策定し、業務分析と問題点の抽出を行うとともに、事務機能改革アクションプランを策定し、会議時間の短縮等、事務の簡略化・合理化を図っている。

財務内容については、科学研究費補助金の申請件数増加に向け、他大学での取組状況や申請上の留意事項等に関する説明会を開催し、外部資金獲得に努力するとともに、管理的経費全般の縮減方策について検討し、資料のペーパーレス化、電話料契約の見直し等の経費の削減を図っている。

一方、自己収入の増加を図ることについて、平成 17 年度から平成 19 年度にかけて入学志願者数が低下していることから、今後、入学志願者の安定確保のためのより一層の対応が求められる。

## 2 項目別評価

### I. 教育研究等の質の向上の状況

#### (I) 教育に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 教育の成果に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (2) 教育内容等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、8項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (3) 教育の実施体制等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (4) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「情報通信技術（IT）を活用した効果的な授業や自主学習が行えるよう学習環境の整備・充実を進める」について、e-Learningのための環境整備を進めた結果、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに「実践的スポーツ指導者教育プログラム－インターネット活動を包括的に支える e-Learning プログラム」が採択され、e-Learningのためのコンテンツ開発及び環境整備が進み、ITを活用した学習環境の整備が進められたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「学生の競技力を十分に発揮・向上させるため、教員の連携による科学的トレーニングに基づくプログラムを提供し、個性・能力に応じたコンディショニング支援を行う。また、栄養管理やスポーツ傷害に対する意識の高揚を図るなど、競技活動へのサポート体制を充実させる」について、競技力優秀者に対する医科学的なサポートである TASS（Top Athlete Support System）プロジェクトの実施とともに、コンディショニング支援室の整備が行われ、オリンピックやアジア大会における金メダル獲得、日本新記録樹立という成績を残していることは、学生の競技活動へのサポート体制を充実させたという点で、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「多様な選抜方法及び評価尺度の多元化の推進を図る。・競技能力の高い者の選抜方法の導入・TOEFL、英検等の外部資格試験等の活用」について、大学院入試において外部資格試験等の活用を図る計画が実施されていないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画「大学院学生の研究活動を経済的に支援する方策を検討する」について、大学院生の研究活動を支援するため、学会派遣のための旅費等、必要経費の経済支援を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

## (II) 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

### (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「総合型地域スポーツクラブなどの育成プログラムを開発し、健康の維持増進、生活習慣病予防など、具体的な指導原理に関する研究を行い、生涯スポーツの普及振興に寄与する」について、地域スポーツ指導者のための自己学習啓発用メディアを作成し、県内の総合型地域スポーツクラブへ配布し、また県内自治体と連携しPALS(Promotion of Active Life Style)プロジェクトを実施した結果、定期的な運動実施が健康体力度指標や医療費軽減において改善効果が見られることを明らかにするなど、生涯スポーツの振興に寄与していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域特性を活かして、武道及び海洋スポーツの振興を図るための研究活動を推進する」について、国内の武道教育研究機関との武道研究会の開催や、武道映像データベースの構築、諸外国との武道研究交流等、武道の領域の研究活動を行い、また海洋スポーツの振興に関する研究活動を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

### (Ⅲ) その他の目標

#### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

##### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

###### (優れた点)

- 中期計画「大学の人的・物的資源の活用及び地域貢献の観点から、大学を基盤とするスポーツクラブの創設及び運営を図る」について、大学を基盤とするスポーツクラブである「NIFS スポーツクラブ」が設立され、会員数がここ数年、大幅に増加していることは、大学の人的・物的資源を活用して地域に貢献したという点で、優れていると判断される。

###### (特色ある点)

- 中期計画「スポーツ情報におけるデータベース化に関する共同研究を推進する」について、海洋スポーツセンターが中心となり、「ウォータースポーツ文献情報データベース」を構築し、ウェブサイト上から利用できるようにしたこと、及びスポーツ情報センターを中心に「スポーツ映像データベース」の構築を行いコンテンツの充実に向け取り組んでいることは、特色ある取組であると判断される。

### (Ⅳ) 定員超過の状況

- 平成19年度において、体育学研究科の定員超過率が130%を上回っていることから、今後、入学定員の見直しを含め定員超過の改善に努めることが求められる。

## II. 業務運営・財務内容等の状況

### (1) 業務運営の改善及び効率化

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 事務組織について抜本的に見直すため事務組織改革大綱を策定し、業務分析と問題点の抽出を行うとともに、事務機能改革アクションプランを策定し、会議時間の短縮等、事務の簡略化・合理化を図っている。
- 経営協議会で実質的な審議を行うため、欠席委員の意見を事前聴取した上で審議を行うとともに、遠隔地に所在する学外委員が出席しやすくするため、テレビ会議システムを導入するなど、会議運営の効率化・改善の推進に向けた取組を積極的に行っている。
- 教員に対する教育研究経費の傾斜配分の基礎となる教員業績評価を、各教員の評価を基に、重点的に活動した領域を高く評価できる方法へと見直しを図り、戦略的に学内資源を配分できるよう改善を行っている。
- 専門性を高めるための研修体制やキャリアパスの確立について検討し、「人事制度改革等に関するアクションプラン」を策定し、人事制度改革に取り組んでいる。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 23 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### (2) 財務内容の改善に関する目標

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 科学研究費補助金について、申請件数増加等に向け、他大学での取組状況や申請上の留意事項に関する説明会を開催するなどの取組を行っており、その結果、平成 15 年度から平成 19 年度にかけて、11 件、2,290 万円から 21 件、3,550 万円となっている。
- 基盤的経費である教育研究経費を確保するため、管理的経費の予算額を減額すると

ともに、「経費縮減検討会」を設置し、管理的経費全般の縮減方策について検討し、資料のペーパーレス化、メール便の積極的活用、電話料契約の見直し等を実施している。

- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

**【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】**

- 中期計画【26】「企業、地域社会などと連携を密にして、大学の物的・人的資源を活用した自己収入の増加を図る」（実績報告書 20 頁）について、入学志願者の確保のための施策を始めているが、平成 17 年度から平成 19 年度にかけて入学志願者数が低下していることから、中期計画を十分には実施していないものと認められる。

**【評定】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(理由) 中期計画の記載 11 事項中 10 事項が「中期計画を十分に実施している」と認められるが、1 事項について「中期計画を十分には実施していない」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- スポーツに関する映像・研究データベースの構築・公開を進めるために、スポーツ映像データベース構築に関するプロジェクトを発足し、プロジェクトメンバーから提出されたスポーツ映像情報を随時大学ウェブサイトへ公開している。

**【評定】中期目標の達成状況が良好である**

(理由) 中期計画の記載 10 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 学内の施設と設備の有効利用及び共同利用を促進する効率的な導入計画立案のため、中長期的展望に基づいた「設備整備マスタープラン」及び「施設整備マスタープラン」を策定している。これらのプランに基づき、教育研究・管理運営に必要な設備機器の整備・更新や施設の整備等について、教育研究活動の動向を見据えつつ、重点的かつ計画的に実施している。
- 「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき「国立大学法人鹿屋体育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」を策定し、この計画に沿った省エネルギー対策等を推進し、地球温暖化対策に取り組んでいる。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 研究費の不正使用防止のための取組のうち、雇用研究者の適切な勤務・出張管理の手続きの制度化が実施されていないことから、早急な対応が求められる。

**【評定】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(理由) 中期計画の記載 12 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められるが、研究費の不正使用防止に向けた一部の取組が措置されていないこと等を総合的に勘案したことによる。